

## 2016年3月期第2四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

### 【2016年3月期第2四半期の業績について】

Q：コンサルティングセグメントの業績は好調を維持しているが、中国やヨーロッパといったグローバルマクロ経済に不安があるなかで、潮目に変化の兆しはないか。

A：現状、潮目の変化は特にない。顧客からの引き合いも堅調。

Q：金融 IT ソリューションセグメントの第2四半期の営業利益率が低下（前年同期比 0.7 ポイント減）している要因は何か。

A：2015年3月期第1四半期に発生した不採算案件のひとつで、この第2四半期に約15億円の追加コストが発生した影響が大きい。

Q：保険業向け売上高の伸びが第2四半期に鈍化（前年同期比 0.1%減）した要因は何か。

A：複数顧客のシステム開発が一巡したことなどが影響した。一方、中長期的には、保険業向け事業は拡大傾向にあると考えている。

Q：産業 IT ソリューションが第2四半期に減益（前年同期比 27.4%減）となった要因は何か。

A：2015年3月期第2四半期は営業利益率が13.2%とかなり高い水準だったため、その反動で減益となったが、引き続き堅調だと考えている。

Q：今期、販管費が増加（前年同期比 14.8%増）している要因は何か。

A：人員増や賞与引当の増加で人件費が増えたほか、研究開発やM&Aに係る事務委託費が増加した。

### 【「Vision 2022」について】

Q：2023年3月期を最終年度とする「Vision 2022」について、今後どのような具体的な内容が説明されるのか。

A：「Vision2022」では、共同利用型サービスをはじめとしたNRIの強みをさらに磨き、圧倒的な優位性を活かしながら、デジタルマーケティングやグローバル展開を含めた新規事業や新技術にチャレンジしたいと考えている。現在、2017年3月期から3ヶ年の中期計画を策定しており、中間地点としての当社の目指すところを説明できればと考えている。

以上

・本資料は、2016年3月期第2四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。